

小諸市市民協働推進市民会議「市民活動拠点部会」報告

「市民活動拠点のあり方について」

平成 25 年度小諸市自治基本条例を考える市民討議会より提出された第 2 次提言書において、「人口減少・少子高齢化問題が切迫した状況にある小諸市では、小諸市自治基本条例の理念に基づき、市民協働・住民自治の地域自治社会を自らの手で創り上げていかなければならない。そのためには、地域自治社会の重要な担い手である市民活動団体がその特性を活かしながらまちづくりを推進し、地域自治組織である「区」と調整、連携しながら市民協働、市民主体のまちづくりを実践していく必要がある」とされています。

すでに小諸市では素晴らしい活動をしている多様な主体が点在しています。部会では、その点をつなぎ、小諸市の“新たな支え合い”を支援する「新しいしくみ」（＝拠点）のあり方を、実践に向けて検討を重ねてきました。

1. 平成 25 年度小諸市自治基本条例を考える市民討議会より提出された

「提言」からの課題

1) 「拠点」の機能

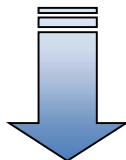
- ・情報の受発信
- ・人・地域・組織などを“つなぐ”コーディネート機能
- ・活動の支援（育成、レベルアップ、支援）

2) 「拠点」の担い手

- ・各主体と対等な立場で関わることのできる“中間支援組織”の設立を目指す
- ・各主体の事情を理解し、つないで、多様な活動を支援できる 人材と組織の育成

3) ボランティアセンターの活用

- ・名称の変更（目的、趣旨に合ったものに）
- ・運営体制の充実



2. 平成 26 年度小諸市市民協働推進市民会議における市民活動拠点部会の

「目的」と「検討課題」

【目的】

まちづくりを進める上で欠くことのできない「市民活動」を支え、推進するための拠点のあり方を考える。

【検討課題】

①市民活動のための拠点の機能

- ・市民活動団体及びボランティアセンターの現状と課題の整理
- ・市民活動促進のために必要な拠点の機能の検討

②ボランティアセンターの管理運営のあり方（今後の方向性）

- ・ボランティアセンターにおいて上記の機能を実現するための方法の検討

3. 部会活動

1. アンケートの実施

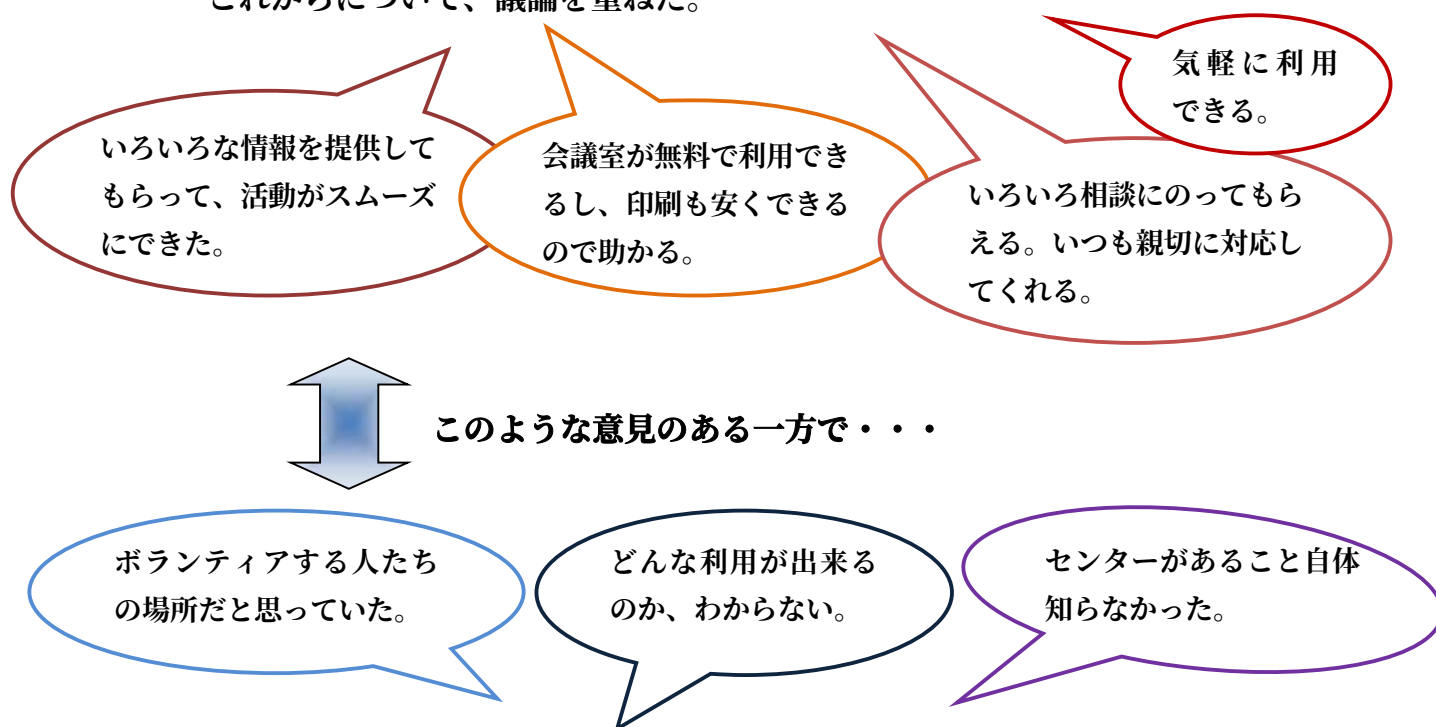
現在小諸市で活動している団体等の現状を知り、課題を整理するために各団体に向けてアンケートを実施。

2. 佐久市市民活動サポートセンター視察

「市民活動ネットワークの拠点創りワークショップ」の中から形成された市民活動団体が、平成24年4月よりサポートセンターの運営を担っている佐久市の現況を視察。

3. ボランティアセンターのあり方についての徹底的な議論

アンケートの結果を踏まえ、ボランティアセンター運営委員のみなさんや、社協等関係するみなさんにも会議に参加をいただき、ボランティアセンターの現状、課題、これからについて、議論を重ねた。

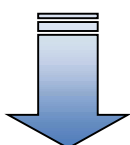


みなさんから直接聞いたりアンケートでいただいた声から

＊「ボランティアセンター」という名称が、“ボランティアをする人の場所”という固定されたイメージを与えてしまっているのではないかと。

そのために、かえって敷居が高くなってしまっているのではないかと。

- ＊本来「ボランティアセンター」が設立された目的は、
誰でも いつでも 気軽に 立ち寄れる場所
困っている人も、何か活動したいと思っている人も、ここに来れば欲しい情報がある
という、市民の場を創りたかったから。
- ＊まず、本来の目的に合った名称に変更したい。
- ＊今まで利用していた人にも、そうでない人にも 何を目的にした場所なのか 明確に分かる名称にしたい。「ボランティア」という言葉は残したい。
- ＊「サポート」のほうが、“支援”という言葉より、一緒にいる、ヨコにいる、というイメージ。“支援”より 広いイメージ。



「ボランティアセンター」から

「市民活動・ボランティアサポートセンター」へ

「市民活動」とは？

「市民自らの意思に基づき営利を目的とせず、自主的・主体的に行う活動で、自分だけでなく、身近な隣人から地域の人たちや世界の人々のために貢献する活動」
(21世紀の小諸市における市民活動推進への提言書より)

市民活動拠点の役割

情報の受発信	活動者の養成・研修	収益事業の実施
場の提供	交流促進	原材料等の斡旋
資金の情報提供	組織化援助と活動支援	活動保険の加入
広報	啓発・普及	各種事業受託
調査・研究	基盤整備	市民の活動参加促進
連絡調整	学習・体験・研修・講習会・イベント等の開催	※活動事業評価
登録・紹介・斡旋・相談	備品の貸出	※地域課題解決のための支援

(アクションプラン6より)

※は、部会において追加した役割

「21 世紀の小諸市における市民活動推進への提言書」(2002 年)

「アクションプラン 6」(2002 年)

活性化！

これから

*運営を担える市民団体の設立を目指す。

「提言書」及び「アクションプラン」の作成に関わり、ボランティアセンター設立に思いを持って活動をしてこられた（今も活動を続けている）みなさんを中心に、サポートセンターの運営の基盤を創る。

次年度は、「提言書」及び「アクションプラン」を時代に合わせて見直していく中で、「どうすれば実現できるのか」を考え、自分たちの運営の指針としての新たな「提言書」「アクションプラン」を作成し、運営団体の基盤とする。

職員が少なくて
忙しそう。
気軽に利用できない。

*ボランティアセンターの現状を踏まえ、できることから

現状の施設・体制では、できることに限りがあるが、ボランティアセンターが「拠点」としての役割を担っていくことを自覚し、市の担当課とともに現行+αの実績を積み重ねることで、一人でも多くの市民に「拠点としてのボランティアセンター」を認知されることを目指す。

会議室の数が少なくて
申し込んでも利用できないときがある。

次年度から第 1 の課題としてあげられていた「人材育成」（リーダー、コーディネーター等）に重点を置いた講習、研修等を企画運営し、先へつなげていく。

駐車場がせまい。
出入りがしづらい。

第 2 に、情報の受発信の仕組みを創る。人材育成も含め、情報の拠点としての機能の充実を図る。

*ボランティアセンターの場所

これからの小諸市のコンパクトシティ構想の中で、「拠点」はどこにあればいいのか、今後の検討の中で、場所についても市とともに検討を重ねていきたい。

バリアフリーじゃ無い。
センター内も狭い。
トイレも狭い。

*行政・社会福祉協議会・センターの役割の明確化

分かりづらく曖昧になっているそれぞれの役割を明確にし、その上で連携、協働がスムーズに行われるようにする。特に災害時の対応は検討が急がれる。